



院長 メッセージ

今号は、安城更生病院の「人材育成」をテーマにお届けします。全ての職員が、いかにして病院へのロイヤリティ、プロとしてのプライドを育み、自らのアイデンティティを確立していくのか。常に地域のためにという思いで繁いできた当院の人を育てる仕組み、みんなで育て、ともに成長しようという風土をお伝えします。

SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

怖さと責任と自負の狭間で、 〈医師〉になる瞬間。

医師教育

CONTENTS

- 1 新病院長 就任挨拶
- 2 連携医紹介
- 3 安城更生のCURE
- 4 安城更生のCARE
- 5 NEWS&TOPICS



地域の期待に応え、自らの責務を果たすために わたしたちは、これからも進化を続けます。

2020年4月付で、安城更生病院 第12代病院長に就任いたしました。歴史あるこの病院の最高責任者として、全力で職責を果たしてまいり所存です。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

私共安城更生病院は、1935年、官立名古屋医科大学（現 名古屋大学医学部）の全面的支援のもと、丸碧連合会更生病院として病床数45床で開設されました。以来、幾多の先人の努力と安城市はじめ地域の方々のご支援により、大きく発展を遂げてきました。2002年には新築全面移転を果たし、現在は地域中核災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、総合周産期母子医療センター等の指定を受け、749床を有する圏域最大の中核施設としての歩みを続けています。

さて、現在も人口増加の続く私共の西三河南部西医療圏は、非常に特異な地域といえます。超高齢社会を迎えた我が国では、全国的には医療需要のピークを迎えるとされる“2025年問題”対策が叫ばれるなか、当圏域ではその後も医療需要の伸びは続くと推計され、“2040年問題”に対する備えが求められます。そして私共安城更生病院が果たすべき責務を考えたとき、新たな施設整備に取り組むことが必要不可欠との決断をいたしました。この事業計画を“発展的再構築”と銘打ち、現在順調に進捗しています。2021年5月に高精度放射線治療棟、同年11月には6階建ての新棟の稼働を予定しており、2022年6月に既存棟の改修を終えると、一段と機能を向上させた新しい安城更生病院が誕生します。放射線・化学療法（抗がん剤）・手術の癌治療3本柱を、最新の機器を導入し大幅に強化します。循環器センター・集中治療部門の拡充をはじめ、高度急性期医療を担う各種センター機能をいっそう高めてまいります。さらに、健康管理センターは女性専用エリアを新設し、様々なニーズにこたえるメニューを用意し、約2倍のスペースを有する“予防医療センター”に生まれ変わります。

安城更生病院は、救急医療・周産期医療・災害医療とがん医療の4つを、果たすべき中核機能として位置づけ、安全かつ最高レベルの医療を提供することを責務ととらえています。今後も進化し続ける安城更生病院にご期待ください。

私共安城更生病院には、高度医療を提供する地域の中核病院としての機能に加え、優れた医療人を育成する教育病院としての側面があります。当院の職員には、全てのメディカルスタッフに、医療機関で活躍するプロフェッショナルとして一流であることを求めています。人はみなで育てるという組織風土のもとで優れた人材を集めさらに育成することが、最高の医療を提供し続けることに直結すると考えるからです。安城更生病院を利用されるすべての皆さんには、皆さんの病院である安城更生病院を、私共職員とともに育てる気持ちを持っていただければ大変ありがたく存じます。

今後とも安城更生病院にご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

新病院長 度会正人

連携医紹介

安城更生病院は、地域医療支援病院として、地域の診療所と連携して地域の医療を守っています。診療所は、日常の健康管理やちょっとした体調の変化などを気軽に相談でき、皆さんにとって最も身近な主治医です。

谷口クリニック

一般内科と循環器専門の両輪で質の高い医療をめざして。

2011年に岡崎市に開業して10年目になります。当院は西尾市と幸田町と安城市に近い為、4市町から患者様が見えます。

私は1990年に名古屋市立大学を卒業後、同大学病院で内科のローテーション（膠原病、神経、循環器、呼吸器、消化器、血液）を終了し、その後循環器を専門に、豊川市民病院、豊橋ハートセンター、菰野厚生病院、東日本循環器病院などで研修してきましたが、今の医療は各分野が高度に細分化され、開業してからは総合的に各疾患を正しく診療していく必要があり、病診連携の主力である安城更生病院には大変お世話になっています。患者様に安心して治療を継続してもらえる様これからも連携を深めてまいりたいと思います。



院長 谷口正仁

岡崎市中島町住吉西3-3

TEL 0564-57-7801

<http://www.taniguchi-clinic.net/>

診療科目 内科／循環器内科

診療日時 午前 8:45～12:00 午後 3:30～6:30

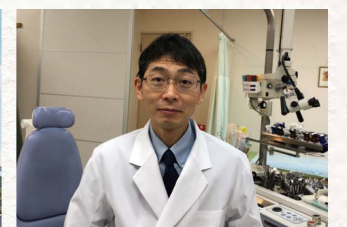
休診日 水曜午後／土曜午後／日曜／祝日

とね耳鼻咽喉科クリニック

耳鼻咽喉科専門医として、地域の皆様に寄り添い信頼されるクリニックを目指しています。

平成18年9月に安城市堀内町に開院しました。安城更生病院には非常勤時代も含めると約4年働かせていただきました。安城更生病院から約1.5kmということもあり、地域連携で安城更生病院には大変お世話になっております。また安城更生病院で診療に携わった患者さんの中で、引き続き当院で診察させていただいている方もいらっしゃいます。当院では耳、鼻、のどの一般耳鼻咽喉科診療の他、アレルギー鼻炎のレーザー治療、睡眠時無呼吸の検査、治療なども行っております。

医療の進歩は目まぐるしく、日々進歩していますが、耳鼻咽喉科専門医として、新しい医療を取り入れつつ、患者さんに最良の医療が提供できるよう、これからも努力していきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



院長 刀根正樹

安城市堀内町山畑64-1

TEL 0566-73-3737 <http://www.tone-ent.com/>

診療科目 耳鼻咽喉科／アレルギー科

診療日時 午前 8:20～12:00 午後 3:20～7:00

土曜 8:20～13:00

休診日 木曜／土曜午後／日曜／祝日

診療機能のご紹介



今回のテーマ

医師初期臨床研修

01 自分の力で考えること。学ぶ目的を理解すること。

医師初期臨床研修とは、医学部を卒業し、医師資格を取得した者に義務付けられている2年間の臨床研修を指し、厚生労働大臣指定の臨床研修施設（病院・診療所等）で実施することが定められています。2年間で内科系・外科系・救急・精神科・産婦人科・小児科・地域医療の各分野を経験し、緊急時の対応から一般的な診療能力の習得をめざします。

この初期臨床研修における当院の教育方針のベースは、第一に〈自分で考える力〉を根付かせること、第二に〈学ぶ目的を明確に意識させる〉ことがあります。そのために、勉強会の一つでは、どういった疾患を取りあげるのか、研修医自身で企画、プレゼンテーションや司会、議事録の作成も行います。そこには上級医が参加し、アドバイスをしています。また、上級医が同席し患者さんの安全をしっかり担保した上で、外来診療も行います。患者さんを前にして、自分が知らなかったことは何か、不足しているのが何かを突きつけられます。それに気づく。どういう学びをすればよいか考える。その繰り返し作用を、プログラムに組み込ませています。

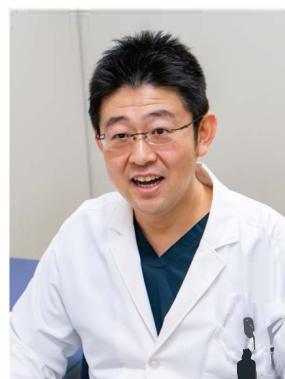


02 求められる医師をめざし、自らの目標を定める。

本紙の特集で紹介したように、医療に求められる地域のニーズが変わり、医師に求められるものも変わってきました。それがどういふものか研修医が理解するために、多職種カンファレンスでの説明や講義などを行うとともに、ワークショップ形式で研修医同士が話し合う場も設けています。

求められる医師の姿を正確に知った上で自らの目標を定め、ゴールを見据えて、その達成度を自分で理解できるよう組み立てています。当院には、経験豊富な各年次の医師がたくさんいます。また、メディカルスタッフとの関係も、患者さんを中心にとってもフラット。そのなかで医師とは何か、医療とは何かをしっかりと学んでほしいと考えています。

臨床研修委員会委員長
脳神経小児科・神経小児科部長
深沢達也



住民目線の医師教育が、ロイヤルティとプライド、結束力を生みます。

当院は、住民目線の医師教育をめざしています。なぜなら、病院においてすべてのベクトルの方向は、患者さんにあるべきであり、教育も決して例外ではないからです。現在、臨床研修の運営会議にはさまざまな職種の職員がいて、医師教育を考え、実施し、評価を受け、さらに改善するというサイクルを回しています。これは当院にずっと続く歴史であり風土。だからこそ当院で育った人材は、当院へのロイヤルティとプライドを持ち、強い結束力を有することができています。今後も、さらなる改善に注力を重ねます。

統括副院長・外科代表部長／プログラム責任者 新井利幸

DOCTOR'S MESSAGE



支援機能のご紹介



今回のテーマ

医療職の臨床教育・看護部

01 評価基準に独自性を持ち、多職種との集合教育も実施。

当院の看護部教育は、JA愛知厚生連看護部クリニカルラダーに沿って、ラダーレベル別にそれぞれの目標を定め、看護実践能力、マネジメント能力の向上をめざしています。

JA愛知厚生連看護部クリニカルラダーは、個々の病院での独自性が保たれていますが、当院看護部の場合は、評価においてそれが一番現れています。というのも、当院は高次の専門医療を担う病院です。従って、入院期間が短く次のステージの病院に繋ぐ看護が求められます。そのため評価基準はそこにウエイトを置かざるを得ません。新人看護師には少し厳しい話ですが、当院の使命、役回りを考え行っています。中堅以上になると、組織マネジメント、病棟マネジメント、疾患マネジメントなどがあり、それは時代の流れや時代の要請で変わってきます。その意味では現在はまだ模索を続けていますが、看護管理職にあたる課長・係長以上を対象に、まずは外部から講師を招いての集合教育を実施しています。さらに、こうした基本プログラムとは別に、医師、セラピスト、臨床工学技士をはじめとする多職種にもお願いし、集合教育を行うなど、多職種との関わりのなかで、OJTでの学びも実施しています。



02 認定・専門看護師との学び、多職種との学びも実践的に。

前述の教育が縦軸とすると、横軸で行っているのが、認定看護師・専門看護師による専門的な看護領域の教育、そして、各種の委員会活動です。前者においては、さまざまな認定看護師・専門看護師が講師になっての集合教育の実施、また、実際の患者さんを一緒に看るといふ、

実践教育にも力を入れています。後者の委員会活動には、各部署の看護師が担当として参加。そこでの学びを部署に持ち帰りみんなに広げる、あるいは、委員会メンバーである多職種とチームを組み、病棟を回るといった多様な活動へと繋げています。いずれも、まさに患者さんと正対するなかで、最先端の正しいエビデンスに基づいたケアを、また、他の専門職のあり方を学んだり、専門知識を習得するよい機会となっています。

副看護部長
吉永恵



教育のあり方が病院のあり方に通じると、私たちは考えています。

ここでご紹介した看護部だけではなく、全専門領域においても、当院では教育に全力を注いでいます。というのも、当院は、教育のあり方が病院のあり方に通じると、考えているからです。だからこそ手を抜かず、常に改善を続けています。幸いにも当院には志ある人材が集まり、病院へのロイヤルティ、プロとしてのプライドを、自らのアイデンティティに繋げています。その総和が当院の力であり、その先にある地域の力となっています。地域医療が変革する今、また新たな教育の仕組みづくりに全力を注いでいきます。

臨床教育・臨床研究支援センター長 三浦崇則

LEADER'S MESSAGE



SPECIAL REPORT

怖さと責任と自負の狭間で、 〈医師〉になる瞬間。

医師教育

二人の小児科専攻医。
安城更生病院の教育が、求められる医師へと導く。



CHAPTER 01

みんなで学ぼう。
もっと良い医療を提供しよう。
そのサイクルが医師を育てる。

「主治医になって（怖い）と思ったことがありますか？」そんな少し意地の悪い質問から取材を始めた。答えるのは、植田智希と畑下直。令和元年4月、安城更生病院小児科の専攻医になった。専攻医とは、2年間の初期臨床研修を終え、各診療科でのより高度な知識や技術の修得をめざす医師のこと。2年目を迎えた今は、患者の診療全般に責任を持つ主治医にも就く。

植田は言う。「日々、怖いですね。検査データの値が跳ね上がっているとき、初めて診る疾患のときなど、いろいろです」。畑下は言う。「今までできたことが急に怖くなる時があります。風邪薬一つ出すにも、この薬で本当に良いのかと考え込んでしまいます」。

その怖さは何が理由なのだろうか。「責任です。子どもの命への責任、将来への責任」と植田は言う。「初期研修医のときは、解らないことは誰かに聞けばよかった。それが今は、スタッフの誰もが僕に聞いてくる。自分が決めなくてはと、ときには震えるほどです。でも、この子のことは、主治医である自分が一番解っている。自分が判断できるはずだ、と思う。怖さと責任と自負との狭間にいつも立っています」。救急でもそれは同じです」と畑下は言う。「救急外来でも、新生児ドクターカーきらり地域に走ると

CHAPTER 02

求められるのは、患者のその後の生活を、人生を見つめる医師。

超高齢社会を迎えた今日、地域医療はケア中心からケア中心へと、大きく変わろうとしている。すなわち、疾病の治療を主目的とするのではなく、慢性疾患や障害を抱えている、生活の質を維持・向上させるための医療提供である。

こうした変革は、医師のあり方にも大きな影響を与える。臓器別・疾患別に特化した知識・技術だけではなく、総合的に、患者のその後の人生を見つめる視線が求められているのだ。それは安城更生病院のように、高次の専門診療を担う地域基幹病院でも例外ではない。いや、安城市の市民病院、地域医療支援病院、医療従事者の教育病院という同院の機能役割を考えると、より強く医師一人ひとりにその能力がなくてはならない。

植田と畑下は、小児の一般的な疾患を徹底的に学び、今はそれらの知識・技術の

きも、研修医や地域の方々が、私の判断を待っているんです。過去学んだものの、経験したことを組み合わせ、頭はフル回転。瞬時にそれを行う怖さと責任を痛感します」。

怖さと責任と自負の狭間に立ちながらも、二人は学びの日々を続ける。「でもね、怖いと思つとき、振り向くと必ず、上級医や看護師たちが僕を見守ってくれている。みんな僕を支え、育てようという思い。それはつまり、みんなで良い医療を提供しようという思いが、この病院にあるからなんです」と植田は言う。畑下も頷きながら言う。「診療科間の垣根の低さ、患者さんや医療に対する真剣で、真摯な姿勢。みんな輝いています。医師だけでなく、多職種も同じ。みんなで学ぼう、この病院の医療をもっと良くしよう。そのサイクルのなかで学ぶことができます」。

COLUMN

●安城更生病院は、NPO法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価を受審し、2020年1月1日付で認定更新をした。これは臨床研修プログラムを第三者機関が評価するもの。同院は2008年、愛知県で最初に認定を受け、4年毎の更新を続け、今回「エッセレント賞」をも受けた。

●これは、国民に対する医療の質の改善と向上をめざすもので、同院が住民目線で医療を展開し、高いレベルで地域社会のニーズに込えているかの証といえよう。

さらなる高度化を図りつつ、小児のなかでの専門分野を模索中だ。では彼ら二人は、どんな医師をめざしているのだろうか。

「あたたい医師になりたい」というのは畑下である。「しっかり子どもや家族の気持ちや訴えを聞き、それを大事に治療する。私の治療やアドバイスで、ハッピーな気持ちで退院していただける。そしてそこで終わるのではなく、退院後の生活を見守って行ける。そんな医師になりたいですね」。植田は言う。「僕は子どもに近い存在の医師でありたい。子どもと遊びながら、子どもと家族の声を、自分のことのように聞ける医師。日々の生活を見つめ、子どもと家族とチームを組んで、ずっとその子を見守ることができる医師になりたいと思います」。

疾患を学んだ時期、疾患を抱える子どもを見つめる時期、そして、家族の思いを大切と思う時期、その積み重ねのなかで、退院後の生活にも目線を伸ばし始めた今。植田と畑下は、求められる医師になる瞬間を迎えたようだ。

BACK STAGE

教育への熱情を地域に広げ、
地域全体の底上げに繋げる。

●取材中、畑下医師は「今でも学ぶ環境はとても良いのに、もっと良くするために、変化を起こそうとする先輩医師がいます。忙しいはずなのに、どこまで患者さんや医療にひたむきなんでしょう」と語った。この言葉からは同院の学ぶ環境は病院が提供するだけでなく、病院の姿勢を自らの姿勢とし、地域のために、人を育て次のサイクルを生み出そうとする職員の存在が見える。

●同院の教育への熱情を知ると、これを地域全体に広げられないかという願いが生まれる。もちろん、母体や組織が異なる病院間では一朝一夕にできない。だがそこを繋ぎ、地域全体の底上げを図るのは、同院ならば可能なのではないだろうか。一つひとつでもその試みが始まることを期待したい。

新型コロナウイルス感染症対策のための 面会についてのお願い

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大が報告されています。入院患者さんの感染症制御のため、令和2年4月より下記の場合を除き、原則、全入院患者さんの面会を禁止とさせていただきます。

面会が可能な場合

- 病状説明を受けるとき
(指導、退院支援カンファレンスなどを含む)
- 手術・検査のための待機
- 付き添いが必要な場合
- 着替えなどの持参
- 病状などが心配で面会する場合
(2親等以内の親族 ※原則12歳以下は不可)
- その他、主治医が必要と認めた場合

1回の面会にご家族の方2名まで、30分を目安とさせていただきます

注意事項

- ご面会は必要最小限にさせていただきますようお願いいたします。
- 発熱(37.5℃以上)、咳、くしゃみ、鼻水、のどの痛み等の症状がある場合は面会できません。
- ご面会時は、手指の消毒を行っていただくようお願いいたします。

受付場所

時間内(平日 8:00~16:30)

入院受付(救命救急センター受付)

時間外(上記以外の時間帯)

防災センター(時間外出入口)

面会の流れ

- 1 面会希望者は入院受付または防災センターにて面会受付
- 2 面会チェック票を記入いただき、チェック項目を全て満たす方に入館証を交付
- 3 面会終了後、正面玄関または防災センターに入館証を返却

面会制限は、感染拡大の影響を考慮し、適時変更をする可能性があります。

TOPICS

新たに診療科を開設します。

1 脳神経小児科

2 乳腺外科

これまで小児科の専門外来として診療を行ってきた「脳神経小児科」、外科の専門外来として診療を行ってきた「乳腺外科」を令和2年4月1日より新たな診療科として開設します。診療体制はこれまでどおりで、専門性をより高め、患者さんの利便性の向上を図ります。外来診療日、診療ブロック等は、4月1日からの外来担当医表でご確認ください。

3 感染症内科

診療科が担当する患者さんについて担当医等から診断や治療についての相談を受けたり助言をします。多岐にわたる感染症症例に関わっていくことが求められるという科の特性上、外来診察および入院は担当せずに各診療科の担当医との連携の中で、より質の高い感染症診療を患者さまに提供できるように努めています。

